

本物の時代

Lion's Roar

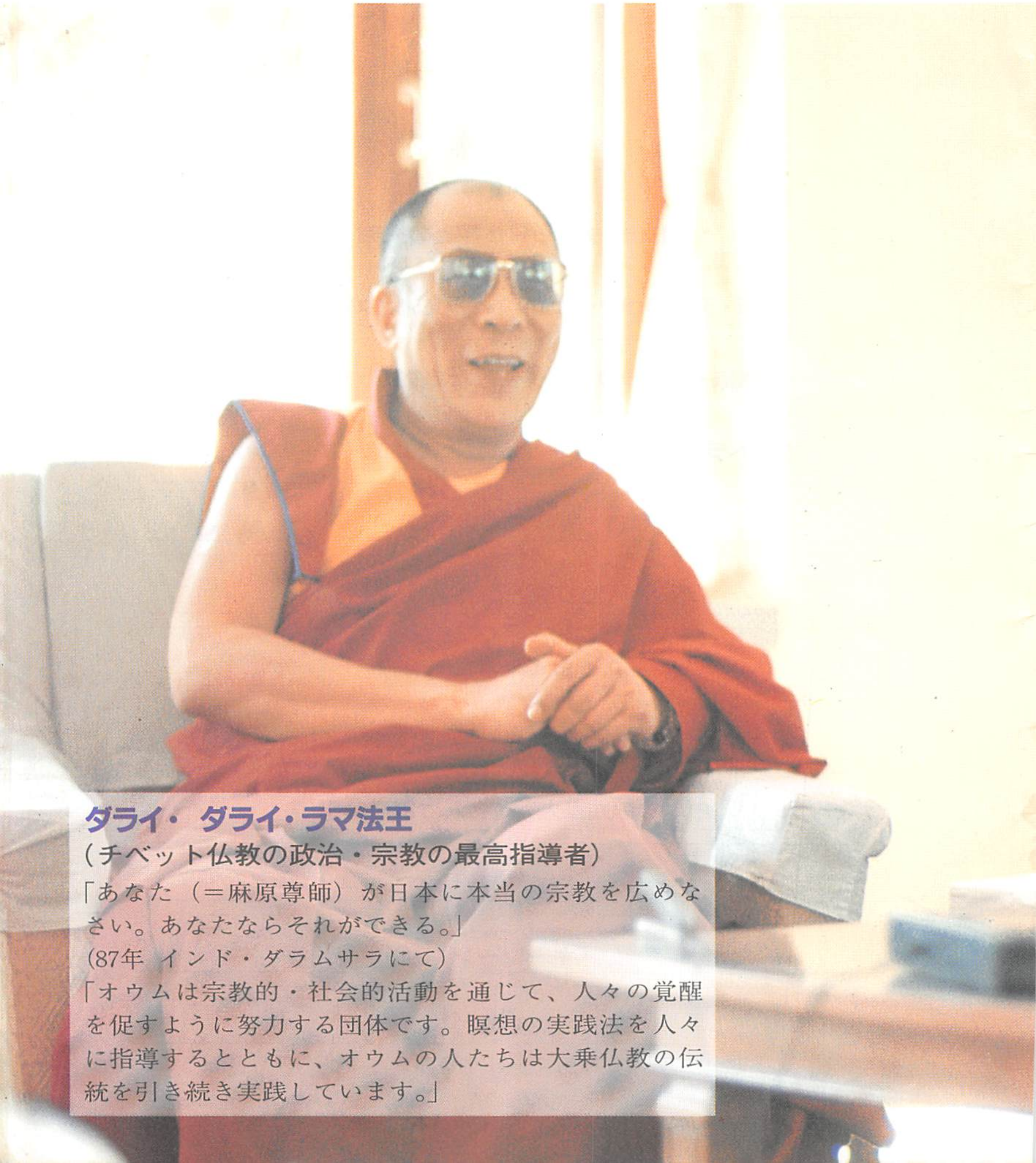
Vol.2

本物の時代

◉ CONTENTS ◉

目次

北伝・チベット



ダライ・　ダライ・ラマ法王
（チベット仏教の政治・宗教の最高指導者）
「あなた（＝麻原尊師）が日本に本当の宗教を広めなさい。あなたならそれができる。」
（87年　インド・ダラムサラにて）
「オウムは宗教的・社会的活動を通じて、人々の覚醒を促すように努力する団体です。瞑想の実践法を人々に指導するとともに、オウムの人たちは大乗仏教の伝統を引き続き実践しています。」

仏教との交流







故カール・リンポチェ師（チベット仏教カギュー派総帥）

「今生のわたしたちは大きな幸運に恵まれています。それは、仏陀が現われて法を説き、その法が今なおここに存在している時代に、わたしたちは転生したからです。……それは皆さんのグル、麻原彰晃尊師です。」（88年８月　オウム真理教福岡支部道場にて）

「尊師は偉大な智慧と、偉大な法の理解、そして大いなる愛、すべてのものを助けようという願望を持っておられます。」

（88年　同名古屋支部道場にて）





カムトゥール・リンポチェ師
(元ダライ・ラマ法王宗教局長：チベット仏教ニンマ派の高僧)

「あなた(＝麻原尊師)は高い悟りを得ている。イェシェー(完全なる絶対なる神の叡智)のステージだ。完全にあなたの生きている意味合いは、衆生を済度するためである。」
(91年５月　インド・ダラムサラにて)

「麻原尊師は公の協力が得られた場合には、真に多くの人々に受け入れられる仏教の師として、日本に真の法を再び確立できるお方です。」
(89年５月　親書)

KHAMTUL RINPOCHE

Near Institute of Buddhist Dialectics
Theckchen Choeling
P.O. McLeod Ganj, Dharamsala-176219
Distt. Kangra (H.P.), INDIA

Date.................

May 24, 1989

TO WHOM IT MAY CONCERN

I know Master Asahara as an old personal friend, and am honored to make the following statements in favour of his person and religious activities:

1. I greatly admire Master Asahara's natural Buddhist qualities of devotion, kindness, generosity, and selflessness.

2. He is an experienced and qualified master of meditation, Tantra and Yoga.

3. Master Asahara, if given proper public co-operation, can become a genuinely popular Buddhist master, who could re-establish the true doctrine of Dharma in Japan.

4. I am also aware that Master Asahara's religious organization, AUM Shinrikyo, is a disciplined and well-organized religious body undertaking various activities for furthering the general cause of public welfare.

KHAMTUL RINPOCHE

Near Institute of Buddhist Dialectics
Theckchen Choeling
P.O. McLeod Ganj, Dharamsala-176219
Distt. Kangra (H.P.), INDIA

Date.................

5. Master Asahara and his company's sympathy and assistance to the Tibetan people and culture is an example of their generosity and concern for the needy ones.

6. I am pained to learn that, despite its good intention and activities, AUM has not so far received proper recognition and support from the Japanese government.

7. I strongly recommend that AUM be given its rightfully deserved 'Tax-Exempt Status' and other necessary government and public recognitions.

Thank you very much.

Khamtul Jamyang Dhondup Rinpoche
Thekchen Choeling, Dharamsala

1989年5月24日

関係者各位殿

麻原尊師はわたしの古い個人的友人であり、彼の人柄および宗教的活動について次のように述べることができ、わたしは光栄です。

1. わたしは麻原尊師の仏教的な献身・親切心・心の広さ・無私の心を非常に尊敬しています。

2. 尊師は瞑想、タントラそしてヨーガに熟達した優れた指導者です。

3. 尊師は、彼にふさわしい公的な協力が与えられるならば、日本において、仏教の真の教義を再び確立することのできる、一般大衆に真に愛される仏教の師となることのできる人です。

4. わたしはまた、尊師の率いるオウム真理教が規律のある、統制のとれた宗教団体であり、公共の幸福を促進するために数々の活動を行なっていることを知っています。

5. 尊師そして尊師の仲間の方々のチベット人、そしてその文化に対する同情および援助は､彼らの困窮する者への寛大さと配慮を表わす良い例です。

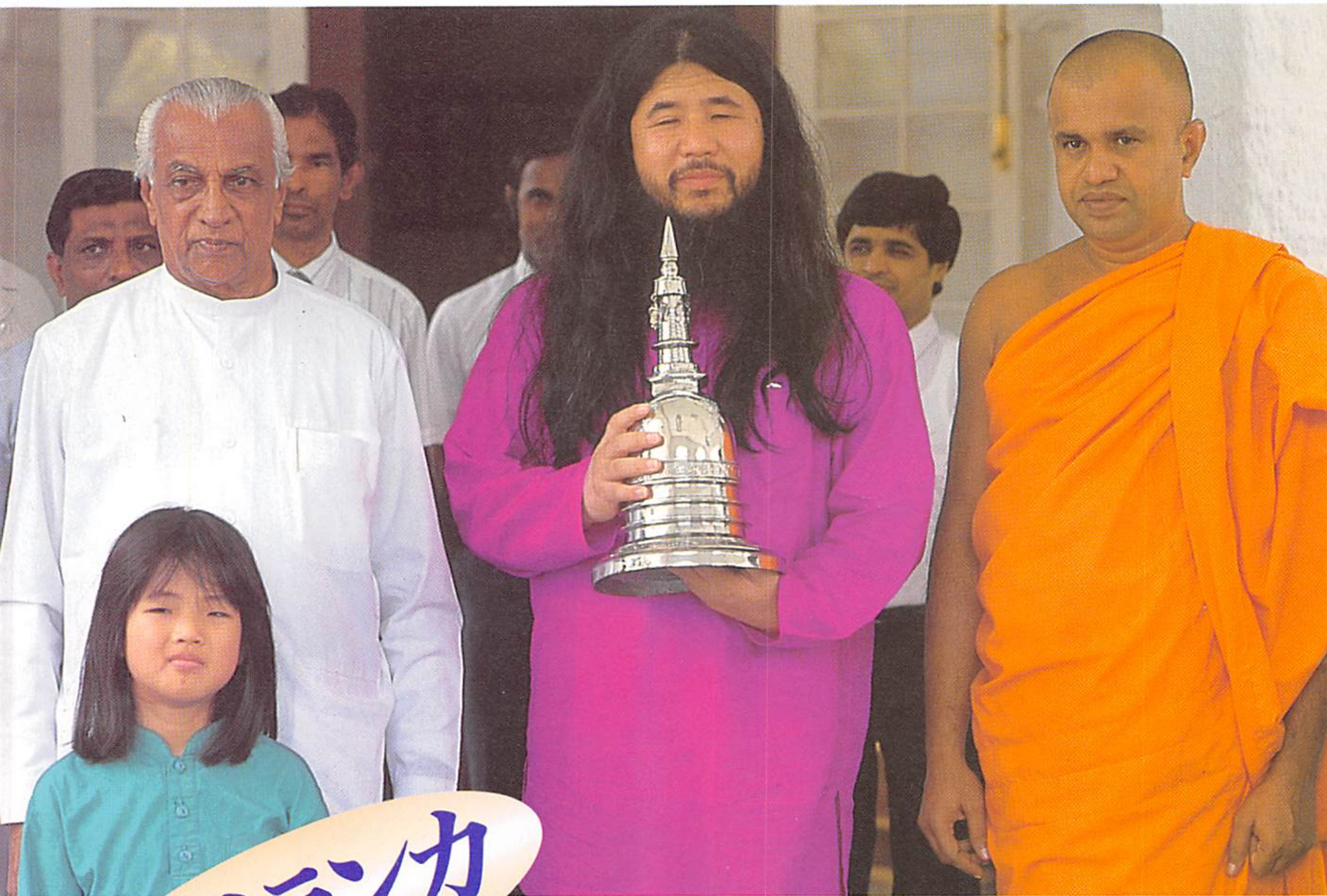
6. わたしはオウムがその良心的な意図と活動にもかかわらず、いまだ日本政府から適切な認可と支持を得ていないことを憂うものです。

7. わたしはオウムが当然受けるべき免税権、その他必要な政府および公的機関による認可を与えられることを強く望むものです。

カムトゥール　ジャムヤング　ドンドゥプ　リンポチェ
テクチェン　チョーリング　ダラムサラ



南伝・テーラヴァーダ仏教との交流



スリランカ

麻原尊師は仏教国スリランカからも公式招待された。当時の総理大臣（現大統領）D. B. ビジェトゥンガ氏より仏舎利（サキャ神賢の遺骨）を受け取る尊師



尊師を歓迎して集まったスリランカの民衆
(ゲートの文字からは手作りの温かさが伝わってくる)
1992年３月28日

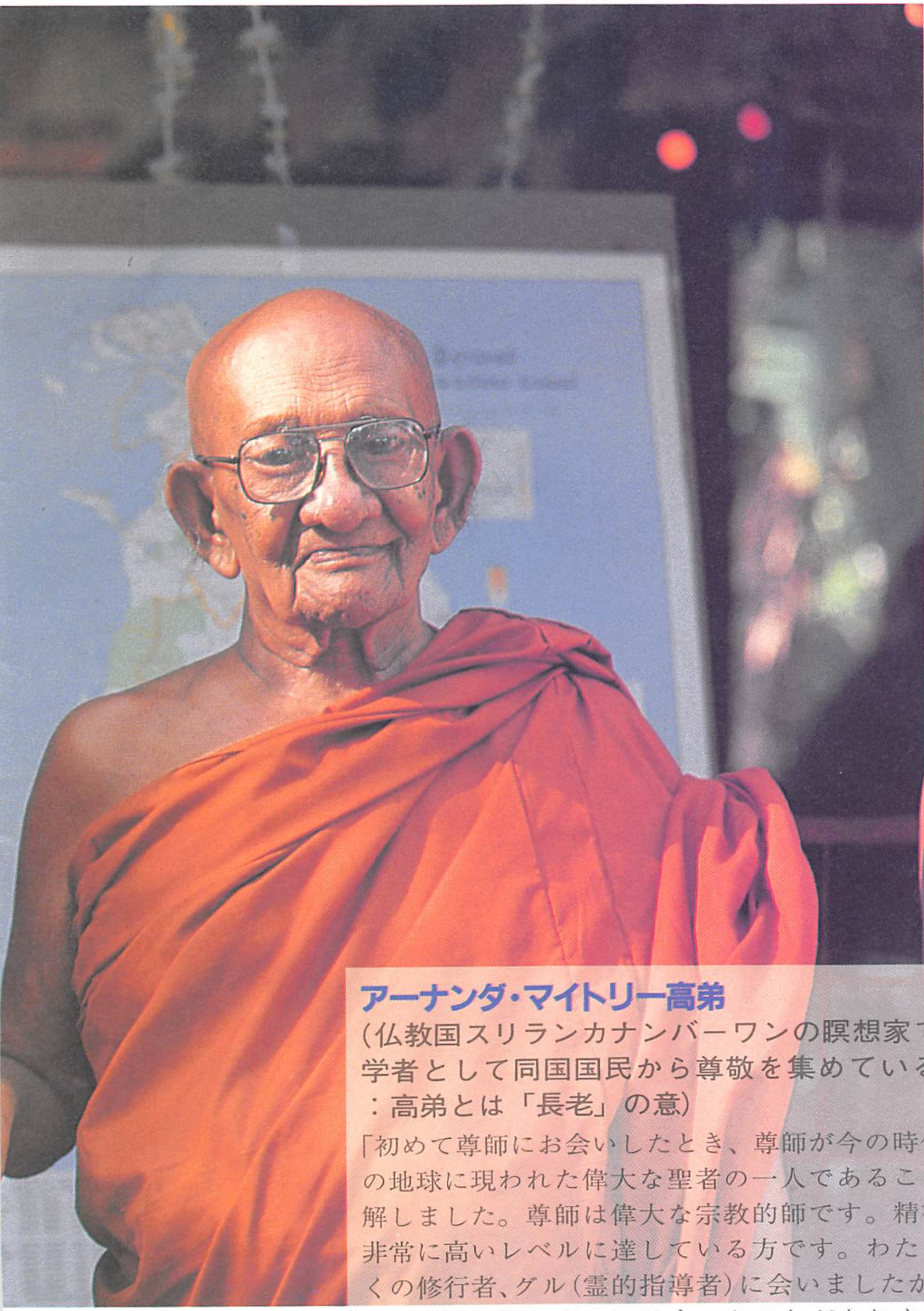
〝オウム・サッチャ・サンガ・アソシエーション〟とは、スリランカの人々を仏教の教えにのっとって精神面と経済面の両方から幸福に導くための団体です。



麻原尊師の呼びかけによって、「国際仏教会議」が開かれ、スリランカを代表する高僧の方々が出席された。







アーナンダ・マイトリー高弟
（仏教国スリランカナンバーワンの瞑想家であり学者として同国国民から尊敬を集めている聖者：高弟とは「長老」の意）

「初めて尊師にお会いしたとき、尊師が今の時代、この地球に現われた偉大な聖者の一人であることを理解しました。尊師は偉大な宗教的師です。精神的に非常に高いレベルに達している方です。わたしは多くの修行者、グル（霊的指導者）に会いましたが、尊師ほど素晴らしいグルには会ったことがありません。」
（92年５月　スリランカ・バランゴダにて）

南伝・テーラヴァーダ仏教との交流



ラオス出家修行僧による出迎え

ラオス





麻原尊師は仏教国ラオスにおいても国賓として迎えられ、大歓迎を受けた。
ラオス国民の温かい歓迎を受けた尊師一行。

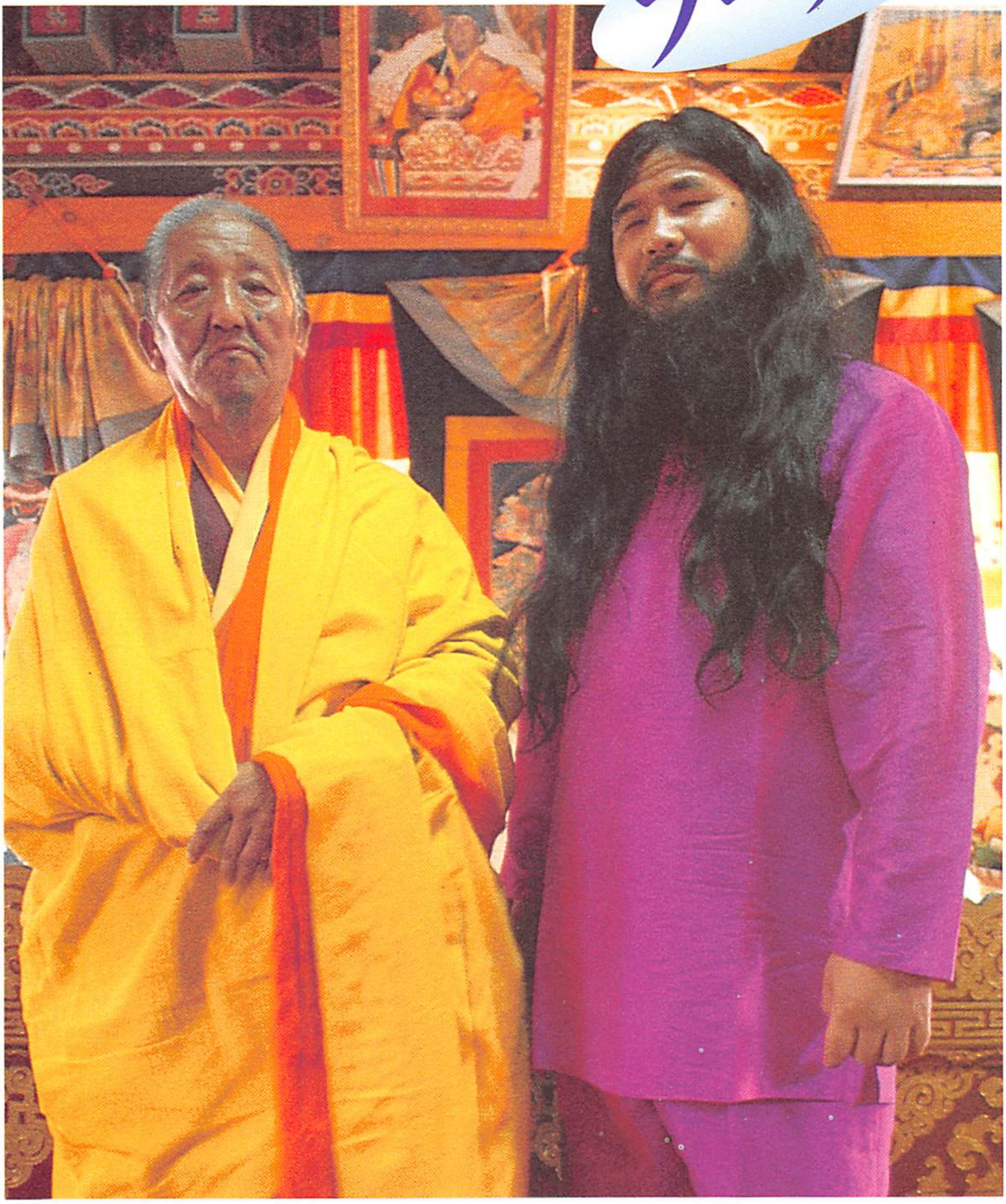
タントラ・ヴァジラヤーナ仏教との交流



国王と

92年７月に尊師一行はタントラ・ヴァジラヤーナ仏教を国教とするブータン王国国賓として招かれ、同国国王ならびに法王と会見した。そして尊師は同国より、〝最聖〟の称号を贈られた。

ブータン



法王と

ヨーガ行者との交流





スワミ・アカンダナンダ
(歴史上傑出したヨーガ行者ラーマ・クリシュナ・パラマハンサの孫弟子：功徳の行者と呼ばれている)
「あなたには特別の使命がある。……近い将来、日本はほとんど破壊されるでしょう。それは神の意思なのです。そのときに、歴史に姿を現わす新しい人類を率いなければならないのが、あなたです。」「あなたには特別の任務がある。それは日本人を高い精神状態へと引き上げることです。」
(86年 インド・ウッタルカシにて)

ロシアとの交流

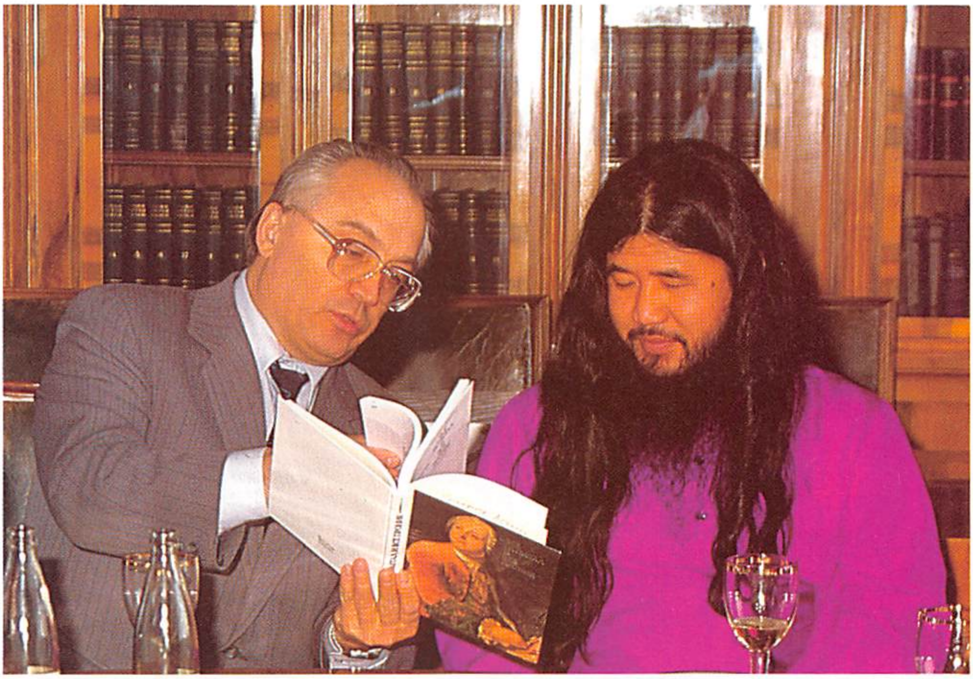


安全保証会議書記・第一副首相ロボフ氏

（前露日基金会長／前ソ連首相代行／前大統領直属専門評議会議長）

「オウム真理教の若いスタッフがモスクワで活躍することを望みます。」

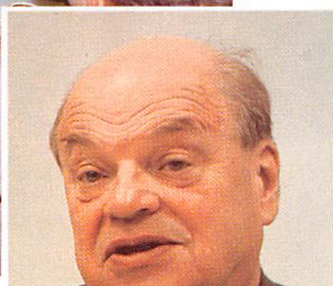
「露日基金の会館が、モスクワの中心地にできます。その中の一部をオウム真理教の拠点にすればいいのではないでしょうか。」



二度目のロシア訪問のとき、前回の訪問の際に講演を行なったモスクワ大学のサドウニチ学長と再び会見。尊師のために開いてくださった晩餐会では、解脱を科学的に証明する共同実験の話も持ち上がり、大いに盛り上がった。



尊師、オウム真理教の科学部門のメンバーと、レーザー研究でノーベル賞を授賞したバソーフ博士らとの会談で、量子力学の未来について熱心な討論が行なわれた。



バソーフ博士

モスクワ4大学での講演

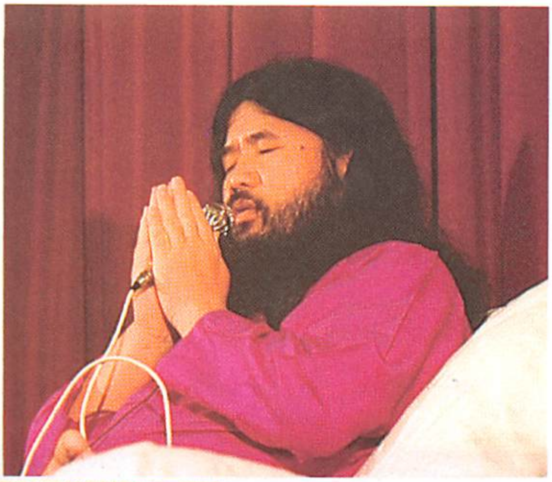


ロシアの大学の最高峰モスクワ大学



在家の六波羅蜜から「自己の苦しみを喜びとし、他の魂の苦しみを自己の苦しみとする」というマハーヤーナの修行までの心の成熟のプロセス、そしてすべてを科学的に証明しようとするオウム真理教の姿勢についての講演がなされた。(モスクワ大学にて)

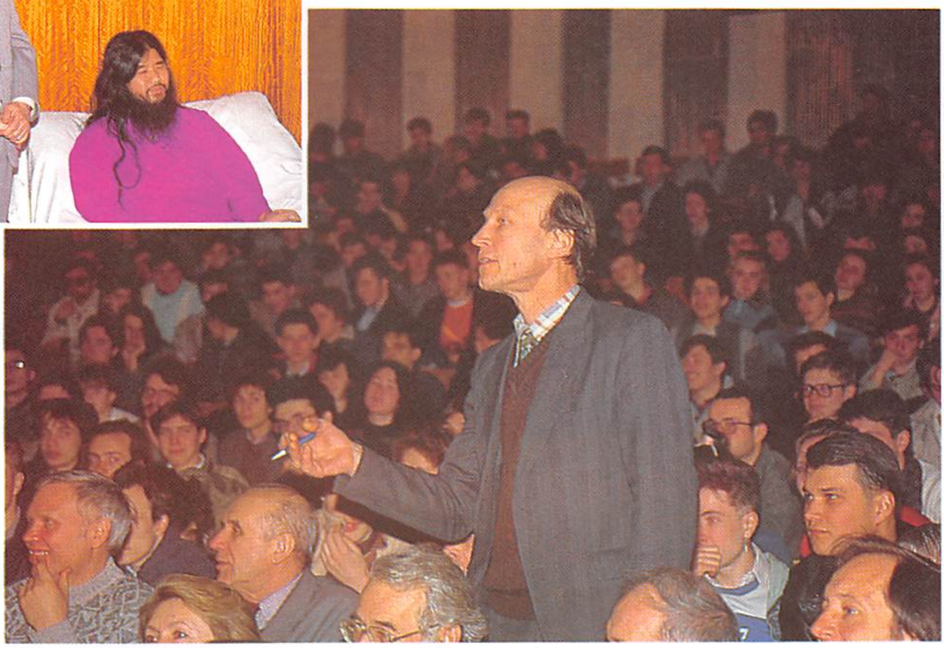
(モスクワ工科大学)
レーザー理論を交えながら、修行のステージが科学的にチェックできるという内容の講演がなされた。







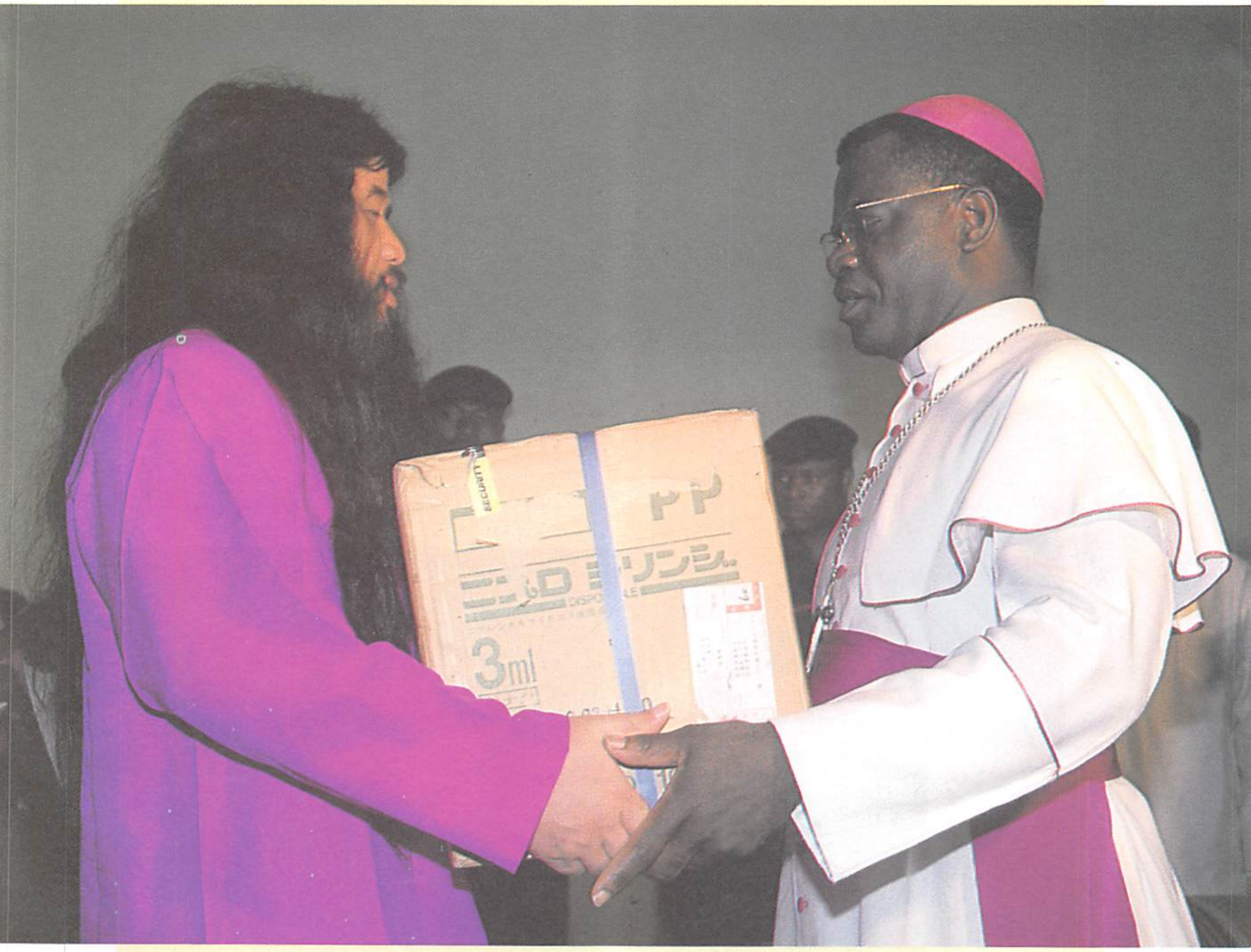
(モスクワ国際関係大学)
←宗教の目的が、知性を向上させ、文化や、経済あるいは学問を発達させ、人間を改造すること(仏教の言葉を使えば、智慧を得ること)であるという講演がなされた。



(モスクワラジオ電子自動制御大学)
イエス・キリストによって言われた「精霊」という言葉が仏教の「管・風・心滴」の風と同一であるということが示され、地・水・火・風・空という五大エレメントと分子運動という主題についての講演がなされた。

アフリカ・ザイールとの交流

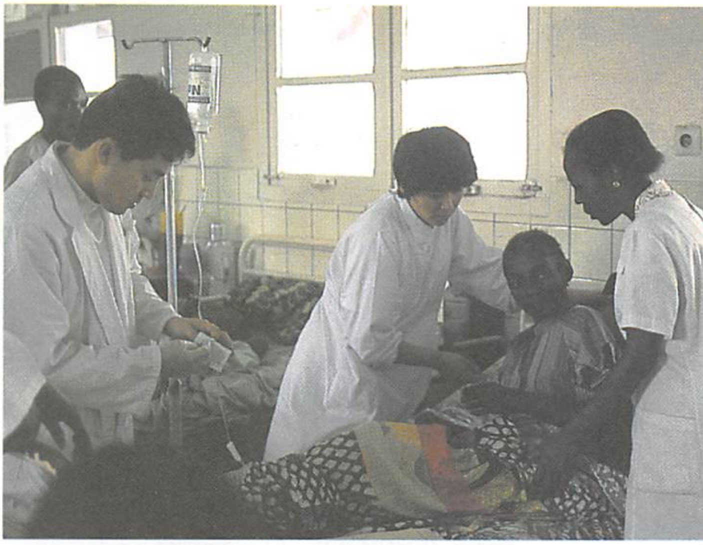
92年10月、オウム真理教は、貧困と病苦にあえぐアフリカのザイール共和国に医療使節団を派遣し、医療援助や物資援助を自らの手で行なった。



大統領と並ぶ実力者モンセンゴ国民議会議長に医療品を手渡される尊師



医療資格、看護婦資格を持つ出家修行者や信徒による医療活動



現地マスコミは尊師一行に熱い注目を寄せた。同国の人気ニュース番組に生出演される尊師

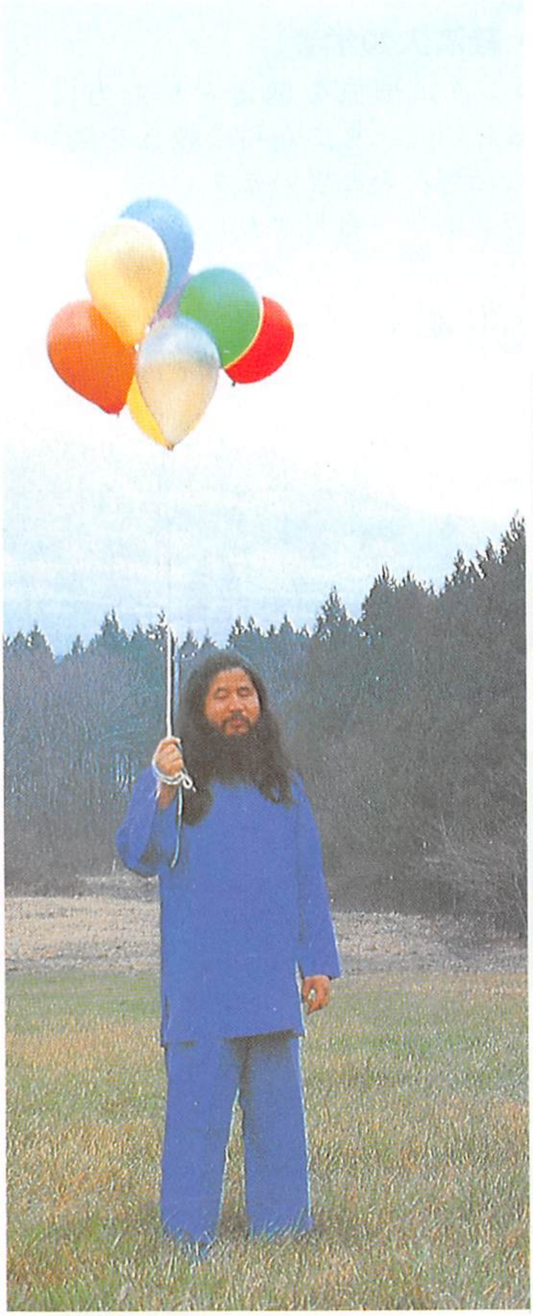


日本での知識人・有名人による評価

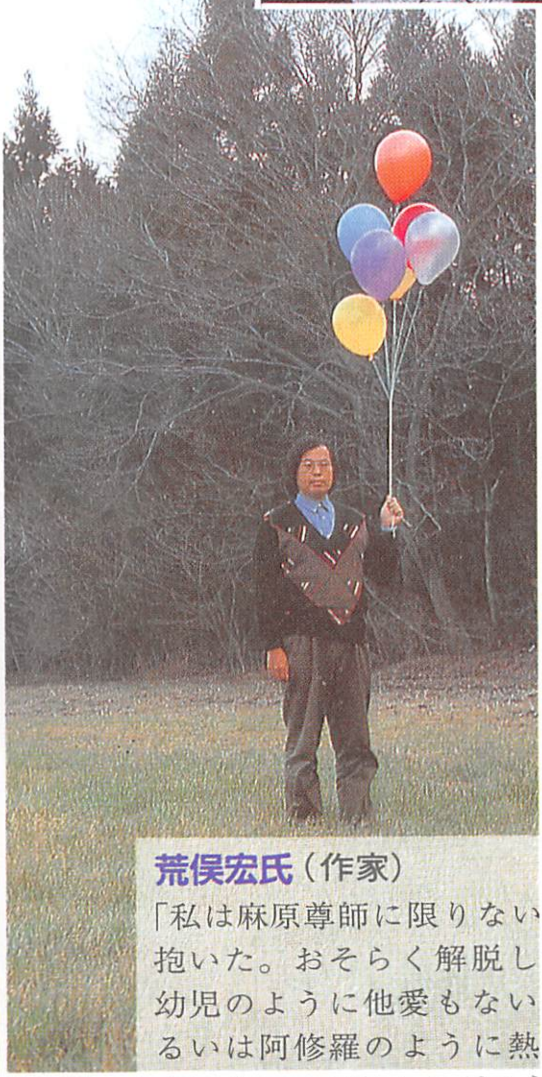


中沢新一氏（宗教学者、中央大学教授）
「僕は彼（＝麻原尊師）がとても高度なことを考えている人で、高い意識状態を体験している人だと認めています。日本の今いるいろいろな宗教家の中でも知性においてかなり上等なレベルにいる人だと思いました。今の日本で宗教をやっている人の中で稀に見る素直な人なんじゃないかな。」（『週刊ポスト』89年12月４日より）

写真：マガジンハウス『ＢＲＵＴＡＳ』1991.12.15号より



写真：新潮社『03』1991. 6 月号より





荒俣宏氏（作家）

「私は麻原尊師に限りない好感を抱いた。おそらく解脱した者は幼児のように他愛もないか、あるいは阿修羅のように熱狂的であるかの、どちらかだろう。……麻原彰晃がほんものの解脱者であるとして、かれが示す寛大の姿勢は、あきらかに前者の例といえるだろう。」

（『03』91年 6 月号より）

栗本慎一郎氏

（国会議員・経済人類学者）

「麻原さんのように煩悩を越えられた方は、非常に素晴らしいし、そこからの教えを説いていっていただきたいと思います。」

（『サンサーラ』92年１月号より）





写真：朝まで生テレビより

写真：1991年11月４日　気象大学学園祭より





島田裕巳氏

（宗教学者・日本女子大学助教授）

「『オウム』は最初はヨーガから始まったが、その後は、仏教の本来のスタイルに近づいている。日本の仏教は世俗化しているために『オウム』が特異な集団に見えるが、むしろ仏教の伝統を正しく受け継いでいる。パーリ語の仏典を訳したりして、勉強している点も、それを裏づけている。」

（『週刊朝日』91年10月11日号より）



「ビートたけしのテレビタックル」
（91年12月30日放映）
ビートたけし氏と対談。以前から尊師に会いたがっていたというたけし氏と話が弾んだ。録画終了後にたけし氏から尊師に個人的に話しかけがあり、後日『Bart』（集英社）誌上において再び対談がなされた。



たけし氏：麻原さんと同じ土俵に登場しますから。
尊師：大乗の発想のなかにある「自己を捨てる」ということができるかどうか。それがわたしの課題です。
（『Ｂａｒｔ』一九九二年六月二十二日号より）

大学講演



東京大学の講演では、二階席のある大教室でも立ち見の出るほどの大盛況だった。大宇宙の創造のプロセスから社会問題まで広範な質問がなされたが、どの質問に対してもスパッと回答される尊師の明快さが際立っていた。



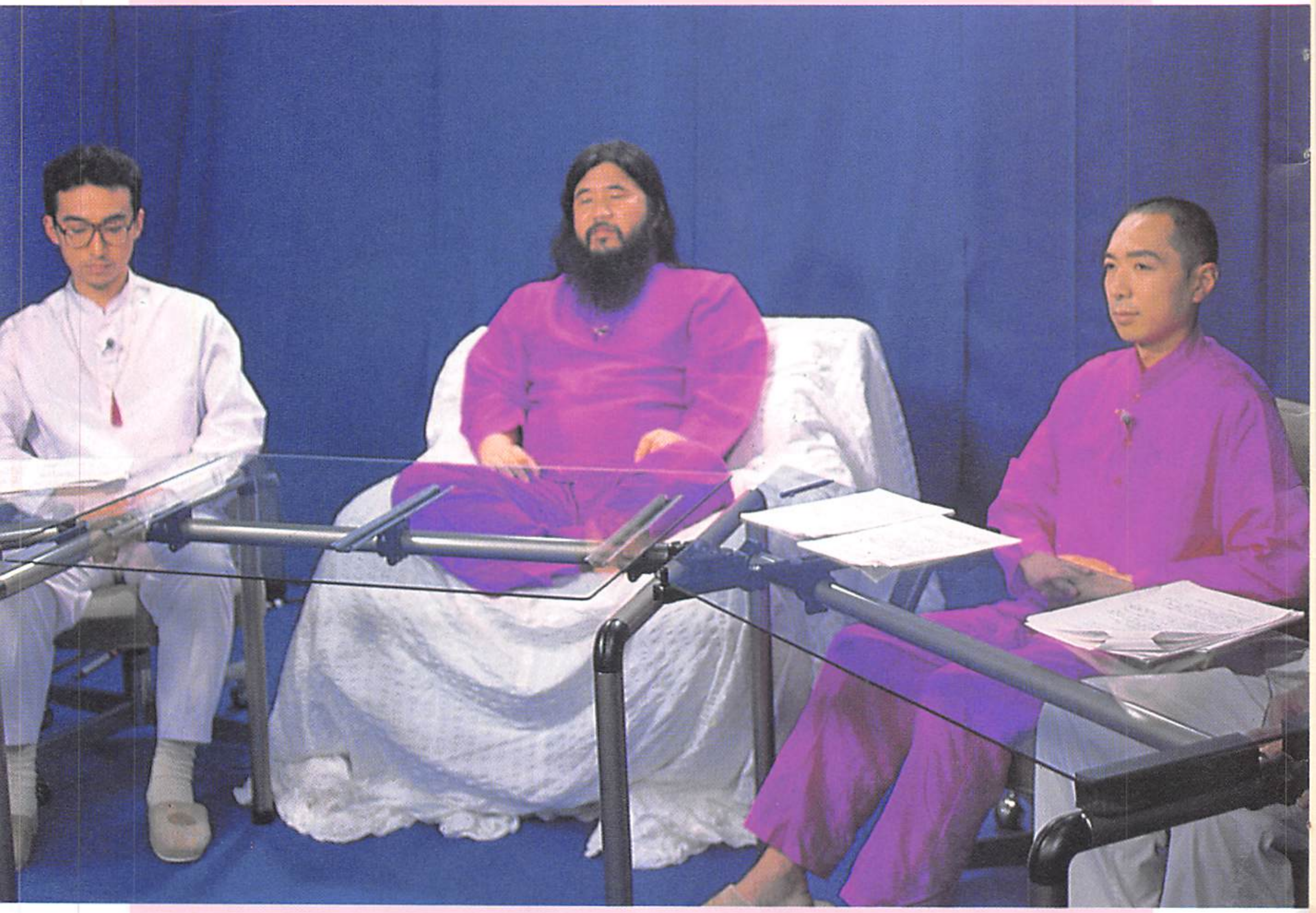
京都大学講演会においては、定員200人の会場に、麻原尊師を一目見ようとした学生1300人以上が詰めかけて大変な盛況を呈した。後半の大質問会では、時間を延長して、人類学や物理学の専門家からの問いに答えられる尊師に何度も熱い拍手が巻き起こっていた。

ロシア・オウム真理教シンフォニー・オーケストラ
「キーレーン」

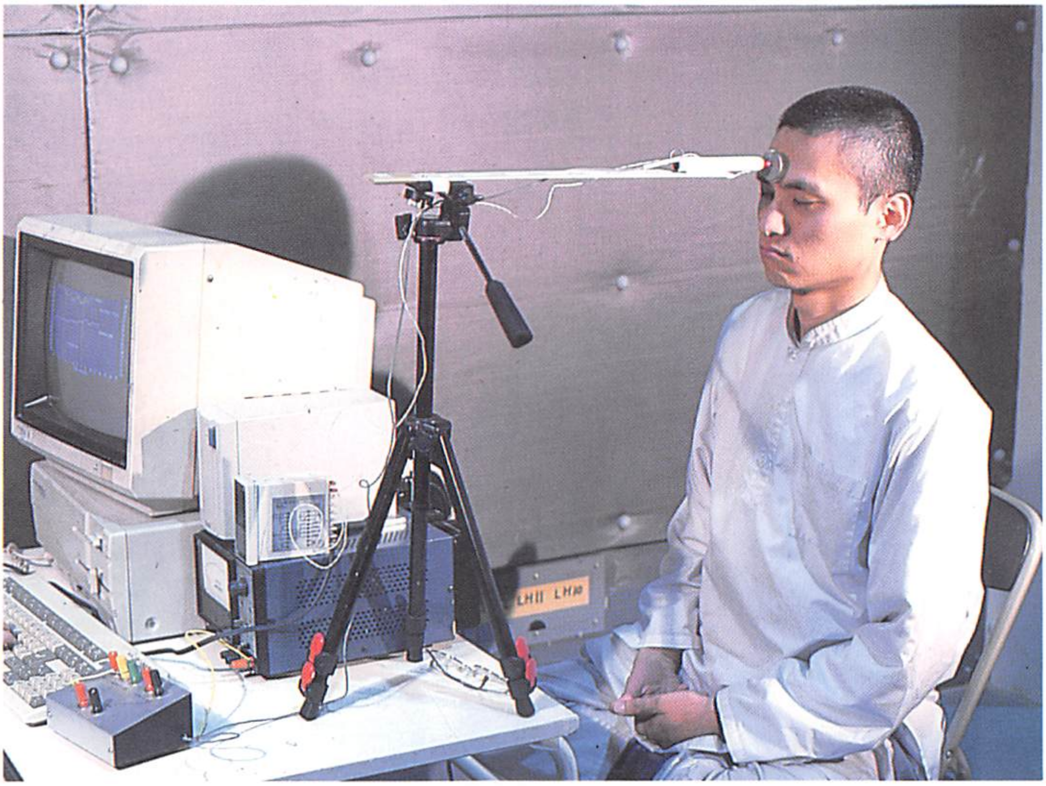




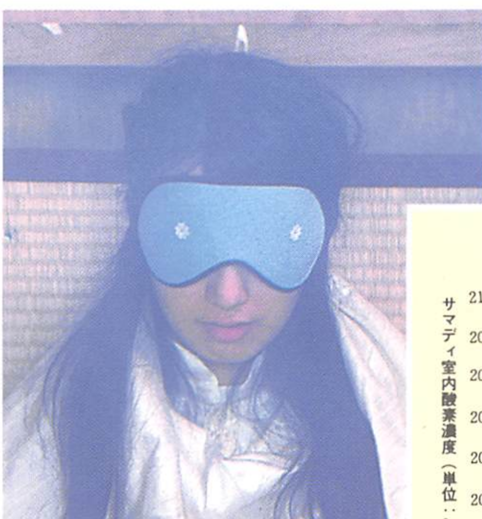
真理探究



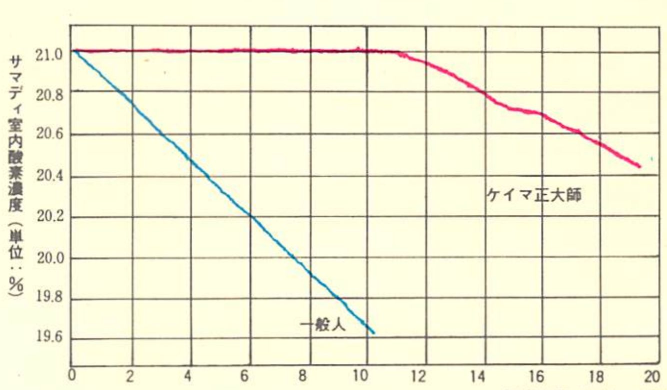
オウム真理教は視聴率80％のロシア国営放送「2×2」で〝真理はひとつ〟という考えに基づいた科学番組「真理探究」を週一回放映し、好評を得ています。



人体から発する電場を測定する実験



マハー・ケイマ正大師



グラフ ① ケイマ正大師サマディ室内の酸素濃度の変化
（1988年5月17日、静岡県富士宮市オウム真理教総本部道場）
装置の構成…サマディ室 3×3×2.4m、実質内容積20.0㎥

マハー・ケイマ正大師のサマディ中の酸素消費量のグラフ

Lion's Roar